

2018. 11. 30.

山口県子ども読書支援センター（山口県立山口図書館）発行

TEL083-924-2111 FAX083-932-2817 <http://library.pref.yamaguchi.lg.jp>

## ★メールマガジン「本はともだち～山口県子ども読書支援センターニュース」配信中！

メールマガジン「本はともだち」は、新刊紹介や県内の行事など、より充実した内容で配信中です。読者登録の方法は県立図書館のホームページをご覧ください。

### 【山口県子ども読書支援センター行事】

#### ★幼児のためのおはなし会

○日時：平成30年12月4日（火）11：00～11：20 ○会場：山口県立山口図書館 ○対象：幼児

《11月のおはなし会で使った本》

『きかんしゃシュッシュ』（紙芝居） アインズワース/原作 八木田宜子/脚本 和歌山静子/絵 童心社 2012

『いろいろおんせん』 ますだゆうこ/ぶん 長谷川義史/え そうえん社 2008

『三びきのやぎのがらがらどん』 マーシャ・ブラウン/え せたていじ/やく 福音館書店 1965

◎申込み、連絡先：山口県子ども読書支援センター（電話：083-924-2111 FAX：083-932-2817 Eメール：[a50401@pref.yamaguchi.lg.jp](mailto:a50401@pref.yamaguchi.lg.jp)）

#### 【新刊紹介】 価格は消費税抜き

##### <絵本-乳幼児から>

『どんどんばしわたれ』 こばやしえみこ/案 ましませつこ/絵 こくま社 2018.10 ¥900

どんどんばしわたれ、さあわたれ。こんこがでるぞ、さあわたれ。どんどんばしわたれ、さあわたれ。ぽんぽこでるぞ、さあわたれ…。元々は「とおりゃんせ」と同じような「門くぐり遊び」のわらべ歌だが、歩くのが楽しくなるような2拍子のリズムの調子良さが、幼い子供たちに喜ばれている。巻末には楽譜も掲載。「わらべうたえほん」シリーズの最新刊！

##### <絵本-3, 4歳から>

『クレーンからおりなさい!!』 ティベ・フェルトカンブ/作 アリス・ホッフスタット/絵 のぞかえつこ/訳 フレーベル館 2018.10 ¥1400

バートは工事現場が大好きな男の子。毎日工事現場をのぞきこみ、クレーンなどの大きな車両を眺めていた。ある日、バートは突然工事現場の柵を越え、ロードローラーのエンジンを回して、道路に止まっていた自動車をつぶし、クレーンでおまわりさんの乗ったパトカーを吊り上げた。でもそのわけは…。バートの活躍が痛快なユーモア絵本。オランダの「銀の石筆賞」受賞作。

『くろいの』 田中清代/さく 偕成社 2018.10 ¥1400

ひとりで帰るいつもの道で、わたしが出会った不思議ないきもの「くろいの」。どうやらわたしにしか見えていないみたい。ある日、思い切ってくろいのに声をかけてみた。くろいのがわたしを古い日本家屋に招いてくれた。お茶をのんで、一緒に押し入れから屋根裏にあがってみると…。黒一色の細やかな銅版画で描かれた、心温まる絵本。

##### <絵本-5, 6歳から>

『みずとはなんじゃ?』 かこさとし/作 鈴木まもる/絵 小峰書店 2018.11 ¥1500

水はまるで忍者みたい。冷やせば固い氷になり、熱すれば水蒸気に形を変える…。水の不思議な性質や自然の循環等について、生活の中の身近な例とともに、子どもにわかりやすく説明。鳥の巣研究の本等で有名な絵本作家鈴木まもる氏が、かこ氏から絵の担当を託されて、入念な打ち合わせを経て完成。随所にかこ氏へのオマージュが込められている。かこさとし氏の最後の絵本。

##### <絵本-小学校低学年から>

『かあちゃんのジャガイモはたけ』 アニタ・ローベル/さく まつかわまゆみ/やく 評論社 2018.9 ¥1400

戦争中の東西二国。国境で暮らすかあちゃんは、畑の周りを壁で囲み、ジャガイモ畑を耕しながら、二人の息子を大事に育てた。でも、成長した息子たちは家を去り、それぞれ東と西の国の将校に。ついに二人は軍を率いて、かあちゃんの畑で戦うことに…。母親の立場から描いた反戦絵本。『じゃがいもかあさん』（1982年偕成社刊）として邦訳された作品が、カラー版で再刊行。

##### <絵本-小学校中学年から>

『ざっそう』 ロアルド・ホフマン/原作 吉澤みか/絵 きむらゆういち/構成・訳 今人舎 2018.10 ¥1600

カエルやトンボなどいろいろな生き物がいる「ざっそうのひろば」は、少年トモにとって特別な場所だった。だがある時、除草剤が撒かれ、雑草は枯れてしまった。悲しむトモに、おばあちゃんは長崎での原爆体験と、焼け野原に生えたきた雑草のたくましさ語る。ノーベル化学賞受賞、詩人、劇作家で、ホロコーストを生き抜いたロアルド・ホフマン氏のメッセージから生まれた絵本。

##### <絵本-小学校高学年から>

『石たちの声がきこえる』 マーグリート・ルアーズ/作 ニザール・アリー・バドル/絵 前田君江/訳 新日本出版社 2018.8 ¥1500

まるで昨日のことみたい。安全で自由で平和だったのは…。戦争が始まると食べ物が消え、村には爆弾が落とされた。平和を求めて大勢の人が、無事を祈りながら小さなボートで海を渡り脱出したが…。シリア人の芸術家が、流浪する難民の姿などを、小石を組み合わせた絵で表現。わかりやすい言葉と石のアートで、シリア難民の物語った反戦絵本。あとがきや巻末ガイド等も詳細。

『鹿踊りのはじまり』 宮沢賢治/作 ミロコマチコ/絵 三起商行 2018.10 ¥1500

嘉十（かじゅう）が野原に置き忘れた手拭い。手拭いを取りに引き返した嘉十は、6頭の鹿たちが、手拭いを中心に環になってぐるぐる廻っているのを見た。嘉十が鹿たちを見ていると、耳がきいんと鳴り、鹿たちの言葉が聞こえてきた。鹿たちは手拭いが生き物かどうか、おっかなびっくり…。鹿や自然の様子が、東北の言葉でユーモラスに語られる。宮沢賢治童話の絵本。

<読み物—低学年から>

『クリスマスのあかり チェコのイブのできごと』 レンカ・ロジノフスカ/作 出久根育/絵 木村有子/訳 福音館書店 2018.10 ¥1600

クリスマスイブの日、一人で教会に出かけ、灯りをもらいに行くことになった小1のフランタ。教会からの帰り道、お墓に供える花を盗まれたと落胆するおじいさんに出会う。気の毒に思ったフランタは、花を買いに行くが、どうしてもお金が足りない。そこでフランタのとった行動とは。チェコに伝わるクリスマスイブの出来事をもとに創作された、ある男の子のお話。

<読み物—中学年から>

『どどこ山はどこにある』 おおぎやなぎちか/作 松田奈那子/絵 フレーベル館 2018.9 ¥1300

まどかは90歳を越えたひいおばあちゃんのひいちゃんとの仲良し。ある日、どどこ山に行くと言うひいちゃんに、無理やりついて行ったまどかは、ひいちゃんの幼馴染の男の子たちに出会う。二人で幾度かどどこ山に行くうちに、まどかだけ男の子たちに「帰れ!」と言われるようになり……。ひいおばあちゃんの死を受け入れる温かい想いがいっぱいファンタジー。

<読み物—高学年から>

『もう逃げない!』 朝比奈春子/作 こより/絵 PHP 研究所 2018.10 ¥1400

毎日登校前に腹痛に悩まされ、遅刻してしまう小5のぼく。病院で過敏性腸症候群と診断されるが対処法がなく、トイレの回数の多さをクラスメイトにからかわれ、遂には仲良くしていた友だちからも距離を置かれることに。腹痛の原因がストレスであることを理解してくれない父親との関係にも悩んでいたぼくだが、自分を解き放つきっかけになる出来事。気弱で多感な少年の成長物語。

<読み物—中学生から>

『14歳、明日の時間割』 鈴木るりか/著 小学館 2018.10 ¥1300

史上最年少で、ある出版社の特別賞を受賞し、作家デビューした中2の明日香。突然卓球部をやめ、家庭科部に入学してきた野間君。超運動音痴の茜。小説家志望の担任。時間割に見立てた7編の短編で、中学生たちの苦悩、友情、異性への想い、家族関係などを鮮やかに描写する。笑いあり涙ありの青春群像をユーモラスに描いた、中学生作家の小説第2弾。

<ノンフィクション—小学校低学年から>

『戦争なんか大きい! 絵描きたちのメッセージ』 子どもの本・九条の会/著 大月書店 2018.9 ¥1800

2015年に企画され全国を巡回した、「戦争なんか大きい!〜絵描きたちのメッセージ」展。そこで展示された、61人の画家による平和への想いを表現した絵に、平和と人権にかかわる日本国憲法の重要な条文をそえて収録した本。せなけいこ、原ゆたか、長野ヒデ子など、子どもになじみ深い作家が勢ぞろい。巻末には、作家による絵に込めたメッセージも掲載。

<ノンフィクション—小学校中学年から>

『新しい心のバリアフリーずかん きみの「あたりまえ」を見直そう!』 中野泰志/監修 ほるぷ出版 2018.9 ¥3900

「心のバリアフリー」とは、私たちの中にある「気づかない」という心のバリアを取り払い、バリアフリーの社会を実現するために行動すること。子どもを連れた人やお年寄り、障害がある人など、様々な違いのある人が、みんな同じように生き生きと活動できる社会をつくるために、困っている人を見かけたらどんな行動をとればいいのかを、実践例を通して多数紹介する。

<ノンフィクション—小学校高学年から>

『人工衛星とITで米づくり』 小泉光久/著 大谷隆二/監修 寺坂安里/絵 大月書店 2018.9 ¥2600

ドローンでとらえる米の生長、自動運転田植え機による田植え、人工衛星を使った収穫時期予測の研究等、最新技術を使った米作りの様子を解説。実用化されつつある近未来の農業・漁業の姿を写真やイラストで紹介する「科学がひらくスマート農業・漁業」シリーズ。他に『野菜とフルーツを工場で作る』『肉とミルク、卵をつくる新技術』『魚をそだてる海の牧場』の全4巻。

『天皇と元号の大研究』 高森明勅/監修 PHP 研究所 2018.11 ¥3000

日本国と国民統合の象徴である天皇。来年5月1日に新天皇が即位し元号が変わる今、知っておきたい天皇の公務や、即位・婚儀などの儀式、元号の成り立ちについて、多くの写真や資料とともにわかりやすく解説。また、歴代の125人の天皇の中から、29人の業績と元号を紹介する。見返しにすべての天皇・元号の一覧表あり。「楽しい調べ学習シリーズ」。

<ノンフィクション—中学生から>

『居場所がほしい 不登校生だったボクの今』 浅見直輝/著 岩波書店 2018.9 ¥820

中学時代に2年近くわたる不登校・引きこもりだった著者が、そのとき感じた苦しさ、不安など言葉にできなかった気持ちを、24歳の今、一人の少年の物語として語る。不登校のはじまりから、一念発起して進学した高校・大学時代、生き難さを抱える当事者と親たちに寄り添う活動を展開するに至った現在。「ツラさはいつかカラになる」という思いを伝える。岩波ジュニア新書。

『死体が教えてくれたこと』 上野正彦/著 河出書房新社 2018.9 ¥1350

無医村での医療、貧しい人からの治療費拒否など、まさに「赤ひげ先生」だった父。その背中を見て医者となった著者が選んだのは、死者を診る「監察医」。事件や事故で亡くなった人の物言わぬ真実を明らかにすることを仕事とし、2万体の検死解剖を行う。法医学の第一人者が、若者に向けてその仕事を紹介し、自身の生涯を振り返りながら命の尊さを語る。「14歳の世渡り術」。

<研究書>

『童話作家のおかしな毎日』 富安陽子/作 偕成社 2018.10 ¥1500

亡くなった母の人生や父との不思議な出会い、戦争を乗り越えた富安家のこと。運動会や宿題や数学が大嫌いだった子ども時代。童話作家になったいきさつから、父と義父のキーパーソンとなっている今の生活の様子まで、自身のルーツをユーモラスに綴る。偕成社のホームページに連載されたものを中心に加筆修正し、書下ろしを加えた自選エッセイ集。家族や著者のカラー写真も掲載。

『かんがえる子ども』 安野光雅/著 福音館書店 2018.6 ¥1000

「自分で考える」ことを大切にしてきた著者が、どのように考えて作品を生み出してきたのか、『さかさま』『もりのえいほん』『旅の絵本』などの絵を示しながら、「子ども」「学ぶこと」「考えること」について語ったエッセイ。中高生にも手渡したい一冊。ふるろくに、最初の絵本『ふしぎなえ』誕生のいきさつ等あり。著者は、1926年島根県生まれ。山口師範学校研究科修了。